



専門・教育課題選択研修「児童生徒理解」

平成26年7月29日(火)実施

居心地のよい学級づくりー教師の資質・能力の向上を目指してー

高知大学 鹿嶋 真弓 准教授

## アセスメントを行うための四つの前提

目的：援助の方向性を見つけ、子どもの問題解決をより有効な方法で援助する。

### 1 子どもとの信頼関係を築く

なおそうとするのではなく、分かるとうすることが大切！

### 2 行動と解釈のちがいに注意する

教育相談では「受容」が重要！しかし、すべてを受容するわけではない。  
感情は受容するが、行動は受容しない。行動の裏には必ず理由がある。

子どもの言葉じりをつかむ  
のではなく、感情をつかもう！

### 3 多様な方法の活用

観察法：休み時間・授業中・活動中 等  
調査法：Hyper-QUやあったかアンケート 等  
面接法：個人面接・集団面接 等

自分で判断し、行動できるように、  
子どもたちに自己決定の場を  
設けていくことが大切！

### 4 新しい知識の習得

仲間との情報交換，研修会や講習会への参加



## 学級の目的地を明確にする

対応策は具体的行動レベルで！

(例) ルールが守れていないとき

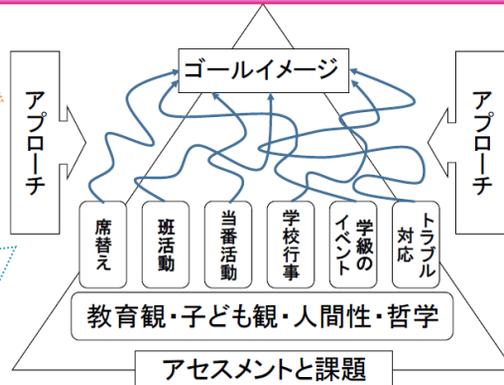
× 注意する

○ どうすればよいか具体的に伝える

うまくいったことは続けよう！

\* 負のスパイラルからの脱出

\* 負の空気に巻き込まれない



アプローチしても子どもの  
行動が変わらなければ・・・

- \* 教師自身が変わる！
- \* 方法を変えて、次なる一手を！
- \* そのためにも情報交換を！

### 1 学業不振：学ぶ意味の喪失

「分からない」「おもしろくない」

「分かってほしい」

→ 分かることの意義を話す

### 3 人間関係の歪み・希薄化：群れ集う体験の減少

つきあい方が分からない

一緒にやる意欲や喜びの薄れ

→ ソーシャルスキルトレーニング，人間関係づくり等

キーワードは

「自己肯定感を高める」

「どんな生き方をしたいのか」

→ 価値観を話す

「どんな生き方をしたいのか」

→ 自己の中の伸び率で、マイベストをめざす

### 2 在り方・生き方の混乱：大人社会の価値観の混乱

### 4 競争的な教育は浅薄な人間を大量に作り出す

#### 受講者の感想

- ・ 「言葉によって脳は支配される」という言葉が心に残った。普段何気なく使っている言葉が、子どもたちにどう伝わっているのか、どう感じているのか、自分自身の言動を省みたい。
- ・ 子どもの感情を受容し、行動を正せるような考えや、原因の追究に終始せず、解決思考型の考えをもつことで、かわる子どもたちの考えや行動の変化につながるということが分かった。
- ・ ゴールが同じでも自分で決めるか、他人に決められるかということで自分の気持ちは大きく違うということが分かった。

**概要** 初任者及び10年経験者の教員が、合同研修の中で協働して学ぶことを通して、実践的指導力やセルフマネジメント力を高める。

## 研修Ⅰ【実践発表及び意見交流】 「分かる楽しい授業をめざして～思考力・判断力・表現力を育むために～」

初任者の実践発表（成果や課題、質問等）に対し、10年経験者から指導・助言を行いながらともに意見交流をしました。

（各チームの意見交流から抜粋）

**初任者：** 授業の中で発言が固定化してしまい、一問一答のようになっていて…

**10年次：** 例えば、「○○ちゃんはこう思っていたけど、どう思う？」など子どもの発言をつないでいく。そうすると、子どもたちは「多分○○ちゃんの言いたいことは～ことだと思う」などと発言できるようになるので、まずはそんな方法を取っている。

**初任者：** ペア学習が効果的にできていない。ペア学習の効果的な活用の仕方は？

**10年次：** 実践をしながら、「全体で思考する前に子どもたちが自分の考えをもてるようにするために、ペアでの対話を位置づける」「子どもが話したくなる、友だちがどんな考えをしているのか聞きたくなる課題を与える」「友だちの意見とどう違うところが違っているのかを考えながら聞くようにする」などのことに気を付けている。



（小学校チームの様子）



（中学校チームの様子）

**初任者：** 生徒を集中させるために、指示を一回しか言わないようにしている。集中させるための他の手立ては？

**10年次：** 教師が一回しか言わないと言いながら二回も三回も言っているのは、生徒は教師の話の聞かなくなる。例えば、活動にメリハリを付けたり、グループでの評価を入れたりして集中させている。

## 研修Ⅱ【ワークショップ】 「分かる楽しい授業をめざして～言語活動の質的な充実～」

「言語活動の質的な充実」のテーマのもと2学期以降の授業づくりに役立てられるように、各チームがワークショップを行い、その後、作成した成果物を用いながら全体でシェアリングを行いました。

**協議の様子**

言語環境を整えることで言語への関心を高めたり、理解に役立てたりすることができるのでは？

コミュニケーション能力、課題発見・解決能力、考察する力も重要！

見たり聞いたりして、それぞれの課題解決のために必要な情報を判断し、表現できる生徒の育成をめざしていこう。

言語活動の質的な充実をめざした各教科・領域における活動事例を調べよう。



**成果物の紹介**

**言語活動～質的な充実を目指して**

背景  
 ○ PISA・学力調査  
 ○ 知識基盤社会  
 ○ グローバル化  
 ○ 学力の重要な要素

**国語**

**成立条件**

- ①豊かな体験
- ②感受したことの焦点化
- ③表現方法・形式
- ④伝え合う場

①国語科の教科目標指導事項「付けたくいの育成」  
 ②社会生活に必要とされる言語活動のスキルの育成  
 ③各教科で行われる言語活動を支えるスキルの育成

表すこと・考えること・説明すること・話し合うこと  
 伝え合うこと等が学習活動として提示。

「話す・聞く」	「書く」	「読む」
・説明 ・討論 ・発表 ・意見交換	・記録 ・要約 ・整理 ・作文	・音読 ・読みとり ・読み合い ・暗唱

適切な場面・適切な言語活動を設定する。  
 何のための言語活動なのか焦点を絞る。

**言葉を用いて「考える」力を育む**

**言語活動の質的な充実を目指して**

TEACH E

深い・疑問  
 自ら→ペア→全体→生活  
 読む 話す 聞く 深い 活劇

生きる力

算数的活動を通して

国語 生活科 道徳 図工 理科 総合 社会 体育 情報 家庭科 音楽 外国語

① 伝え合う  
② 多角的な見方  
③ 言葉で表現力  
④ 共通点や相違点に気付く  
⑤ 回と式を関連づけて分かる力  
⑥ 式で考える力  
⑦ 回と式説明

図に表す。文と式と図と表  
 具体物を用いる

思考 判断 読解力

算数科における思考力・判断力・表現力を育むための指導のポイントをまとめたチーム

↑ 算数科における思考力・判断力・表現力を育むための指導のポイントをまとめたチーム

### 【研修の記録から抜粋】

- ・ 実践発表から自分と同じような課題や悩みをもつ先生方と意見を共有し、10年経験者の先生から実際に行っている取組や手立てを具体的にうかがうことができ、できるところから実践していきたいと思った。
- ・ 国語科のみならず各教科・領域等においてもそれぞれのつながりを意識して取り組んでいかなければならず、特に中学校では学級担任と教科担任との連携が必要であると感じた。

↑ 基本的な考え方や意義をおさえながら、基盤となる国語科の指導についてまとめたチーム